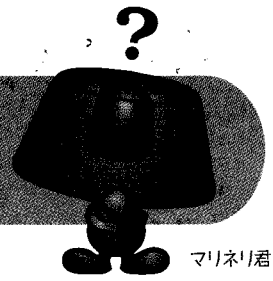


～「測定データ」をみんなのものに～ みんなのデータサイトとは？



マリネリ屋

 <http://www.minnanods.net/>

2011年3月の東京電力福島第一原発事故により放射能汚染が深刻になり、全国に市民放射能測定室が立ち上がり食品などの測定を始めました。その結果はそれぞれの測定室で管理されていたため、ネットの検索で簡単に調べることが困難でした。そこで測定結果を一元化し、誰でも簡単に見ることができるとを目指し、またこの貴重な測定記録を後世に遺していこう、という思いで、有志の測定室が声をあげました。2013年秋から活動をスタートしたインターネット上の市民測定所のデータベース、それが「みんなのデータサイト」です。

今では、日本で最大の市民放射能測定室のネットワークでもあります。2017年4月現在、全国33の市民測定室がデータサイト独自の精度検定をクリアして参加しています。「子どもたちを放射能から守ろう」を合言葉に測定活動や測定データの登録、技術交流などの活動をしています。

私たちは政治的・社会的に独立した非営利団体です。運営は参加している測定室のメンバーから構成する運営委員会によって行われています。

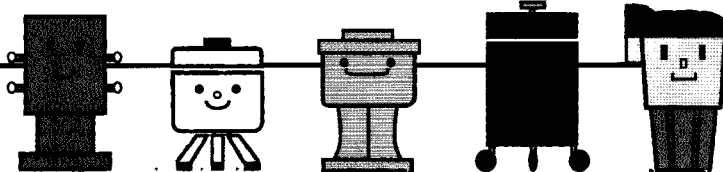
現在食品データは約14,000件以上掲載されており、品名、地域、年月、産地などで検索することができます。行政があまり測定しない、市民が測定したいと思ったユニークな食品・加工品のデータもあります。

また2014年秋には東日本17都県の土壌採取・測定のプロジェク「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」をスタートしました。現在、土壌データは約3,000件以上を測定し、データ公開するに至りました。

参加測定室(2017年4月現在)33測定室

さっぽろ市民放射能測定室 / はかる・さっぽろ / 市民放射能測定室 いわて食と農の情報室 / SAVE CHILD iwate / かねがさき放射能市民測定室 / 小さき花 市民の放射能測定室 / 角田市民放射能測定室 / みんなの放射線測定室とてと / NPO法人ふくしま30年プロジェクト / あがの市民放射線測定室「あがのラボ」 / 那須希望の岩 / 益子放射線測定室 / つくば市民放射能測定室 / HSF 市民測定室・深谷 / 森の測定室 滑川 / みんなの測定室 in 秩父 / NPO法人放射線測定室アスナロ / こともみらい測定室 / 高木仁三郎記念ちょうふ市民放射能測定室 / ちくりん舎(市民放射能監視センター) / 町田放射能市民測定室はかる一む / 座間放射能測定室 / 東林間放射能測定室 / アイメジャー信州放射能ラボ / JCF-Team めとば / とやま市民放射能測定室 はかるっちゃ / 未来につなげる・東海ネット 市民放射能測定センター(C-ラボ) / きょうと・くっすんらば / 京都・市民放射能測定室 / 奈良・市民放射能測定室 / 阪神・市民放射能測定室 / 南福崎土地株式会社 測定室 / おのみち-測定依頼所- / 放射能市民測定室・九州 Q ベク /

よろしく
お願いします!



測定器ファミリー

私たちはこれからも、このデータが社会のあり方を考えるみなさまの指標の一つとなり、放射能汚染から子どもたちを守り、被曝低減の助けとなるよう活動をしていきます。アトラス版の発行、ウェブサイト整備など、今後の活動を継続していくため、資金の応援をよろしくお願いいたします。

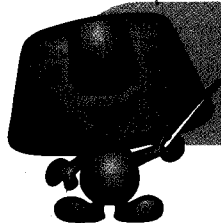
私たちの活動を資金面で支えてください

【ゆうちょからの場合】

- 記号番号 00100-7-729477
- 口座名称(漢字)みんなのデータサイト運営委員会
(カナ)ミンナノデータサイトウンエイインカイ

【他行からの場合】

- 店名(店番) 〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)
- 預金種目 当座
- 口座番号 0729477
- 口座名称(漢字)みんなのデータサイト運営委員会
(カナ)ミンナノデータサイトウンエイインカイ



～国がやらない「土壌ベクレル測定」を市民4,000人で実施!～ 「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」について

 <http://www.minnanods.net/soil/>

原発事故後の政府対応の違い～日本とロシア・ウクライナ・ベラルーシの比較～

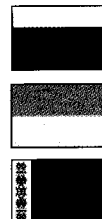
東京電力福島第一原発事故(2011年)

- 汚染地域全土にわたる土壌測定行わず
- 航空機モニタリング、空間線量測定が中心
- 国として福島県で「県民健康調査」(事故当時18歳以下のみ)を実施



チェルノブイリ原発事故(1986年)

- 事故から5年後に「チェルノブイリ法制定」
- 国として土壌ベクレル測定を実施し、避難・補償・作付け制限等の判断基準に
- 長期にわたる補償・保養・健康診断等の制度を設計しフォロー



子どもたちが安全に遊べる場所はどこかという不安、汚染の実情を知りたいという思い、本来なら国が測定すべきではないかという疑問、そういった声を受けて、私たちは市民の力で北は青森から西は静岡まで、およそ今回の原発事故で放射能汚染があると推測される「17都県」という広範囲に渡る地域の土壌ベクレル測定にチャレンジしようと決意しました。

呼びかけに対し資金協力に加え、のべ4,000名の市民の協力を得て土壌の採取をし、2年半で3,000ヶ所以上の検体を参加測定室で測定しました。現在、マップ化したデータをウェブで公開しています。関わった人数・採取地点数の広さ・多さが評価され、近頃では「市民による国家的プロジェクト」と評価してくださる方もいます。

【採取のルール】

- ① チェルノブイリ法で採用しているのと同じ「地表から5cmの深度」とする。地表に降り注いだセシウムの特徴として、浅く採取すれば高いセシウム値が計測され、深く採取すれば低くなるため。すべての地点の採取深度を統一する。
- ② 水たまりなどセシウムが濃縮した「マイクロホットスポット」の土壌は含めない。

この条件で「1リットル以上の土を採取する」とし、同じフォーマットにデータを記録しました。採取の経験がない一般市民にプロジェクトへの参加を呼びかけるため、わかりやすいイラストの入った採取マニュアル「コミック版・虎の巻!」を製作し活用しました。詳細を知りたい方は、虎の巻をお申し込みください。↓

 <http://www.minnanods.net/soil/toranomaki.html>



↑市民による土壌採取の作業風景



東京電力福島第一
原発事故から6年・・・
日本では帰還施策が
進められています

- 「避難指示解除準備区域」では、年間20ミリシーベルト以下という非常に高い数値が基準。(裏面のチェルノブイリ法及び日本のゾーン区分試算表をご覧ください)
- 2017年3月住宅補償打ち切り、避難指示区域外では線量基準なし。

市民による土壌汚染地図帳「アトラス日本版」を発行します!

みんなのデータサイトでは、2017年1月に無料測定期間を終えたことにより(引き続き、有料測定は実施中)4月から9月を告知・拡散のステージと位置づけました。2017年秋には土壌プロジェクトで得た3,000件余のデータを活用して、WEBのみならず紙媒体の日本版「アトラス」(地図帳形式)の発行を予定しています。各都県の測定マップと解説などを掲載する予定です。何事もなくったかのようにさせられている放射能汚染ですが、数十年経って

もなかなか減衰しないという事実を多くの方に知っていただき、避難、補償、保養など課題に直面している方々に直接役立つデータとして活用していただければと考えています。国がやらないなら市民の力でできることをやろう! 貴重な記録を遺しておきたい! と、こちらも引き続き大きなチャレンジとなります。どうぞ応援をよろしくお願いします。